

手話を守った一人の校長の物語

ヒゲの校長

映画

Once upon a time in Osaka (for the Deaf with Sign Language) 1914

学校でも職場でも障害を持つ人たちは障害の無い人たちの視点で判断される事があります。しかし、障害を持たない人たちの理解があれば障害を持つ人の能力を更に活かす事は難しい事ではありません。

滋賀大学産学公連携推進機構は、聴覚障害の子どもの教育支援、聴覚障害者の職場での支援を行っている Silent Voice と協力して、全ての人たちが平等に、共に行動することを目指すために、この映画を上映します。



今から100年前。
ろう者を守るため奔走した教師たちがいた。

申込方法

下記 QR コードからお申し込みください



お問合せ先：滋賀大学産学公連携推進機構

☎ 0749-27-1141

✉ soc-coop@biwako.shiga-u.ac.jp

入場無料
各回定員 150 名
(先着順)



2023. 11. 19 [日]

① 09:00 開場 09:30 ~ 12:00

② 13:00 開場 13:30 ~ 16:00

会場：滋賀大学講堂（彦根市馬場 1-1-1）

* 会場には一般駐車場はありません。

プログラム（1回目、2回目とも）

- ▶ 「ヒゲの校長」上映
- ▶ 講演「コミュニケーションの壁を越える価値」
Silent Voice 代表 尾中 友哉 氏

「ヒゲの校長」の主演を務めた尾中友哉氏は、滋賀大学経済学部の卒業生で、ろう者のご両親から生まれました。現在は、聞こえない・聞こえにくい子どもたちへの教育事業を中心に、ろう者・難聴者が自分らしく生きられる社会を目指して活動されています。



高橋 潔 校長 役



【主催】 国立大学法人 滋賀大学 産学公連携推進機構

【協力】 映画『ヒゲの校長』実行委員会 NPO 法人 Silent Voice



INTRODUCTION ～映画について～

皆さんは、耳がきこえない人と話されたことはありますか。筆談、ジェスチャー、口元を見せてゆっくりはっきり話すなど、さまざまなコミュニケーション方法がありますが、その中で手話をメインにして話す人たち「ろう者」がいます。ろう者にとって手話はかけがえのない言葉です。

ろう・難聴の子どもたちが通うろう学校・聴覚支援学校では、手話が使われてきたのだろう…そう、多くの方が思うでしょう。ところが、大正の終わり頃から最近までろう学校では手話は禁止・制限されていました。「口話法」と言って発声し、相手の口の動きを読みとる方法が急速に広がり、口話法を進めるには手話は不要なものとしてしまったからです。きこえない子どもが訓練によって話せるようになる…、なんと素晴らしいことだろうと、ろう者のことを知らない人は思うかも知れません。

しかし、口話法を身につけさせるために、かつての口話訓練は、つい手話で話してしまう子どもは叩かれ、両手を縛られもした苛酷なものでした。おおっぴらに手話ができないろう者たちはずっと苦しみました。

そこに疑問をもち、個々の子どもに合わせて手話と口話を取り入れる教育を進めた学校がありました。この映画の舞台となる大阪市立聾啞学校です。

映画『ヒゲの校長』は、校長 高橋 潔を中心に教師たちがスクラムを組んで、手話を守り続けた実話がもとになっています。愛情と信念をもって子どもらに接した高橋と「チーム高橋」の教員たち、高橋に献身的に寄り添った家族…戦争にあけくれた困難な時代に、ろう者と共に生きた人々の物語です。

どうぞ、ご家族、お友だちとご一緒にお越しください。



【昭和8年 大阪市立聾啞学校】
～ 高橋校長ときこえない先生たち ～

STORY ～あらすじ～



大正3年仙台から大阪へ、青年高橋潔は、恩師の紹介状を持って大阪市立聾学校聾啞学校の門を叩いた。家の事情にて海外留学し音楽家を目ざす夢をあきらめ、失意にあった高橋。

そんな彼の前に現れたのは、家から追い出され、警官に連れられて来た正一君。耳がきこえず、会話できないもどかしさで暴れる正一君に、高橋は寄り添い、手話を覚え、彼と共に歩みだす…。手話やろう者のことを高橋先生に教えるきこえない先生たち…。

しかし、時代は大きく変わる。「口話法」という嵐が全国の聾学校に吹きまくり、口の動きを読み取り、発語できるようにするためには手話は禁止するべきと、ほとんどの学校が手話を抑えていった。

ろう者の言葉である手話がつぶされそうになっていく中、手話とろう者を守るべく、高橋校長と先生たちは一丸となって時代にあらがおうと立ち上がった…。